



思いやりのある子を育てる

学校長 村越 新

本校の学校教育目標の一つに「思いやりのある子」があります。本校ではこの姿を「温かい言葉」遣いができ、「感謝の気持ち」をもつことができ、「協働」できる子と設定しています。

4年生の道徳で親切について考える学習をしていました。教材に出てくる主人公は、白杖を持つ目の不自由な女性を見て、葛藤の末に声をかけます。「僕につかまってください」と話しかけます。その女性は階段を無事に降り、主人公にお礼を言って歩き出します。その女性を見送る主人公の気持ちを、4年生は考え発表しました。

「ちゃんと家まで帰れるかな？」 「危ないところあるかもしれないな」

「勇気出して声かけてよかった」 「車にひかれないでほしい」

「親切をすると気持ちがいい」 「また違う人がいたら助けたい」 など

授業を通して、このような思いやりのある気持ちになったのです。授業の終末では「親切はどうして大事なのか」という問いに、次のような発表がありました。

「親切にしないと、後で後悔するかもしれない」

「親切はした人のしてもらった人もいい気持ちになる」

「親切をすると、親切が返ってくるかもしれない」

「親切をすると、自分にもいいことが起こる気がする」

『こころのおと』には、「親切をしていきたい」「親切の大切さがわかった」「親切をするといろんな人と仲良くなれると思う」などの記述がありました。誰とでも協働できる子の心情を持ってくれたのだと嬉しく思います。

朝、一年生がタイヤを使って遊んでいるところに出くわしました。ルールを守ったり、譲り合ったり、同じチームの子に声をかけたり、仲間に入りたい子を快く受け入れたりする姿を見ました。「思いやりのある子」は、このような体験を通して育っていくのだと考えさせられました。

授業だけでなく体験を通して、思いやりのある子が「思いやり」を存分に発揮できる学校であるならば、誰もが安心して楽しく生活できると思います。そんな学校にしていきたいものです。



委員長会議

本年度第一回目の委員長会議が行われました。
担当から「49年目の扇小をどんな学校にしたいか」と問われ、委員長は真剣に考えて意見を出し合いました。



- ・完璧な学校
 - ・きれいな学校
 - ・マナーをみんなが守る学校
 - ・自分たちで行動する学校
 - ・きまりを守る学校
 - ・楽しい学校
 - ・やさしい学校
 - ・上下関係なく協力する学校
 - ・あいさつをよくする学校
 - ・明るい学校
 - ・チャイム席ができる学校
 - ・思いやりのある学校
 - ・仲良く協力する学校
 - ・右側歩行をする学校
 - ・授業、学習をしっかり行う学校
- などなど

この時間に一つにまとまることはありませんでしたが、委員長たちの学校をよくしたいという熱い思いが伝わってきました。



自走する子たち

授業中の「自走する子」。問題を解決したり、自分の課題を追求するために、友達と学び合っている場面です。新しい学級にも慣れ、このような活発な姿がたくさん見られるようになりました。先生に「〇〇さんに教えてもらいましょう」「〇〇さんと確認しましょう」と言われずとも自ら動いて学んでいる場面です。

温かい言葉

ある日の朝、子供たちの活動を評価して励ますメッセージを見つけました。先生がこれを書きたくなるほど、良い姿を見せてくれたということです。きっとこのクラスの子たちは張り切って一日生活したことと思います。

